

第14回 加賀温泉駅施設整備検討委員会 議事録

■会議概要

- ・日時 : 2024年8月22日(木) 9:30~11:30
- ・場所 : 市役所別館3階 302・303会議室
- ・出席者:

出欠	所属・職	役職	氏名
出	金沢工業大学 教授	委員長	水野 一郎
出	公立小松大学 教授	副委員長	高山 純一
欠	加賀市商工会議所 総務企画委員長	委員	竹内 和良
欠	山中温泉観光協会 会長	委員	桂田 史郎
出	山代温泉観光協会 会長	委員	和田 守弘
出	片山津温泉観光協会 会長 片山津温泉観光協会事務局長	委員 (代理)	金子 達郎 大中 昌孝
出	加賀商工会議所女性会 理事	委員	丸谷 朱美
出	加賀市美術協会 理事長	委員	河島 洋
出	古場田デザインスタジオ プロダクトデザイナー	委員	古場田 良郎
出	加賀まれびと交流協議会	委員	師池 敬子
出	かが緑化研究会	委員	田畑 智日
出	山代温泉旅館協同組合 理事長	委員	新滝 英樹
出	加賀まれびと交流協議会 副会長	委員	小中出 佳津良
出	石川県土木部都市計画課 課長 石川県都市計画課	委員 (代理)	高橋 雅憲 谷本 雄太郎
出	金沢工業大学 教授	アドバイザー	蜂谷 俊雄

(事務局) 加賀市建設部 谷口部長
新幹線対策室 高辻室長、寺山リーダー、田中主幹、篠籬技師

■報告事項

- (1) 駅周辺施設整備スケジュールと現状について
- (2) 加賀温泉駅にぎわい交流施設について
- (3) 全天候型広場施設「ギャラリー」について

■議事詳細

1. 谷口建設部長挨拶

加賀市はこれまでに加賀温泉駅周辺が市の核となる地域になるよう様々な事業を進めてきました。平成 28 年度には医療センターが完成し、令和元年からは加賀市駅前広場周辺の再整備に着手したところがございます。今後は 12 月 1 日に新幹線高架下のにぎわい交流施設の完成を予定しており、再来年の令和 8 年 3 月には全天候型広場施設（ガレリア）の完成をもって加賀温泉駅全体のグランドオープンを目指しているところがございます。

本日の委員会では、報告事項としまして、駅周辺施設整備スケジュールと現状のほか、加賀温泉駅にぎわい交流施設及び全天候型広場施設「ガレリア」についてご報告いたしますので、皆さまよろしくお願ひ申し上げます。

2. 水野委員長挨拶

既に新幹線は駅を通過しているが、加賀温泉駅前整備は非常に難しい工事があり、色々とやりくりをしている関係で少し遅れていると聞いております。ある意味、計画を成熟させるためにゆっくりと考えていると捉えてもいいのではないのでしょうか。

また、この会がいつ始まったのかを事務局に聞いたところ、平成 28 年からということで、もう 8 年経過しております。先ほどの挨拶にありましたように、グランドオープンが令和 8 年の 3 月となることから、委員会発足からちょうど 10 年間かかり完成となります。

本検討委員会は 14 回目の会合となり、これが最後でございますので、ぜひ皆様のお力添えを賜り、さらにより良いものにしていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

事務局)

ありがとうございました。それでは議事に入りたいと思います。議事進行を水野委員長にお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

水野委員長)

それでは早速、議事に入りたいと思います。次第の報告事項 1. 駅周辺施設整備のスケジュールと現状について、事務局より説明をお願いします。

3. 加賀温泉駅賑わい交流施設について

○事務局から説明

報告事項の 1 番目、駅周辺整備のスケジュールと現状について説明させていただきます。

加賀温泉駅周辺整備のスケジュールですが、令和 6 年 3 月 16 日に北陸新幹線金沢-敦賀間の開通により、新幹線加賀温泉駅は開業しております。現在は加賀温泉駅前施設整備を進めているところであり、新幹線高架下に整備しております、にぎわい交流施設につきましては、残念ながら、2 度の入札不調により遅れが生じており、令和 6 年 12 月 1 日にオープンする予定です。その後令和 8 年 3 月の全天候型広場施設ガレリアの完成をもって駅前広場全体がグランドオープンする予定となっております。

次に、加賀温泉駅をドローンで撮影した空中写真をご覧ください。駅南側の温泉中央口の整備状況ですが、中ほどには、もともと仮駅舎がありました。現在 JR 西日本によって取壊しを進めており、今月中に完了予定です。その後、仮駅舎跡地にガレリアを建設し、令和 8 年 3 月に駅前広場全体が完成する予定です。仮駅舎以外の部分につきましては、右側のほうにバスエリアがあり、左側にはタクシーエリア及び一般車エリアがございます。また高架下には、にぎわい交流施設がございます。こちらにつきましては、12 月 1 日のオープンに向けて工事を進めております。

次に 5 ページをご覧ください。こちらは加賀温泉駅南側の正面の県道から見た整備状況でございます。駅の正面真後ろに今後ガレリアが建設される計画です。

次に 6 ページの温泉中央口バスエリアの整備状況でございます。こちらは、まだ暫定供用で運用しております。

次の 7 ページでございますが、バスエリアを囲む形で整備が完了しているコロネード(屋根つきの歩道)です。こちらは既に整備を完了しており、隣接するショッピングセンターや美術館などに雨で濡れることなく移動できる状況となっております。

次の 8 ページでございますが、駅に向かって左側の一般車及びタクシーエリアの現在の状況となっております。暫定供用中であり、11 月中には工事を終えて 12 月 1 日には供用開始するスケジュールで工事を進めております。

以上です。

水野委員長)

ありがとうございます。ご質問ご意見等がありましたら挙手をお願いします。

無いようでしたら報告事項の 2 を説明していただきたいと思えます。

それでは、報告事項 2 の加賀温泉駅にぎわい交流施設について説明をお願いいたします。

事務局)

それでは報告事項 2 の加賀温泉駅にぎわい交流施設事業について、ご説明させていただきます。10 ページの加賀温泉駅にぎわい交流施設の概略平面図がございますのでそちらをご覧ください。

まずは各施設についてご説明させていただきます。スライドの右側に新幹線駅舎があり、改札口の正面に観光情報センターを整備し、その横にはコンビニを整備します。

さらに左側には、観光客や市民の方が交流を深め、にぎわい創出を図ることを目的としたにぎわい交流スペースを整備します。また黄緑色で示しているのが待合室となります。その横に隣接して飲食等ブースを 2 区画設けています。さらに、その横には管理事務所、トイレ、倉庫やごみ集積所を整備し、建物の外には、自転車等駐車場と身体障がい者用の駐車場を設けます。

また、整備前からある在来線の地下通路を再整備するほか、在来線に沿う形で通路を整備し、これにより建物に入らなくても、駅前広場にアクセスできるようになります。このほか、にぎわい交流施設内にはコインロッカーを設置します。

こちらが今現在のにぎわい交流施設の外観でございます。こちらにもコロネードを整備します。

12 ページをご覧ください。報道の方々はこちらから外部に出すのは御遠慮頂きたい部分となります。

こちらは、九谷焼の絵皿になります。新幹線の改札から出たコンコースからにぎわい交流施設へアクセスする通路の両脇に設置します。

絵皿の全面にはガラスで保護し、内部を LED ライトで照らして際立たせ、訪れた人をおもてなしする演出を考えております。

次に通路の両脇になりますが、山中の伝統工芸である山中漆器を展示しております。

次に観光情報センター内についてですが、お客様の対応スペースを設けつつ、案内カウンターに山中塗や九谷焼の装飾を施しています。また、九谷焼は九谷焼の組合、山中漆器は山中漆器の組合に制作を依頼し、ご協力をいただいております。

こちらが、待合室をイメージパースです。先ほど説明しました待合室の隣にはテナントスペースを配置していますが、この待合室から直接テナントにアクセスできるような作りとしております。例えば、テナントが喫茶スペースの場合、待合室でドリンク等が飲める位置関係としております。

また、待合室には日展作家の塚田外志男さんから寄贈頂いた作品を展示することになっております。

待合室前の通路部分の両脇になりますが、本市の産業を代表するチェーンを使ったアートを展示し、その凹凸面に加賀市の四季を感じられるようなプロジェクションマッピングを投影する演出をいたします。

以上、にぎわい交流施設につきましては、ここまでが部外秘になっておりますのでよろしく願います。

加賀温泉駅にぎわい交流施設は、にぎわいの拠点として整備しているところでございますが、加賀市だけで運営するよりも、民間の活力やアイデアを取り入れた運営がより良い施設になると考え、施設の管理運営につきましては、指定管理者制度を導入することで進めております。

18ページをご覧ください。6月24日から4月19日にかけて公募をかけ、2団体から応募があり、7月29日に選定会を開催したところです。そこから点数が上位になったところを、選定いたしまして、指定管理者の候補者として選定をしております。この候補者を9月議会において議決されれば、オープンに向けて業務開始の準備を進めていきます。また、テナント事業者の選定やにぎわい交流スペースの運営自体も、指定管理者が行うこととなっております。なお、指定管理期間は約5年間となっております。

以上で説明を終わります。

○質問・意見

河島委員)

伝統工芸を使っておりますが、壁に飾るお椀はどのように飾るのですか。

事務局)

作品の中心をくり抜き、そこに鉄パイプを用いて固定します。

河島委員)

案内板等についてはどのように考えているか。

事務局)

案内サインを設け、できる限りわかりやすく案内していきたいと考えております。

河島委員)

作品自体は制作段階に入っているか。

事務局)

作品はすでに完成し確認済みであり、9月から設置段階に入る予定です。

作品の紹介については、QRコードなどを用いて詳しく説明していく予定です。こちらに関しては、九谷焼、山中漆器の各組合さんのホームページにアクセスするよう計画しております。

田畑委員)

コンビニとコンビニの倉庫が少し離れているが問題ないのか。

事務局)

コンビニ倉庫は荷捌き場所の位置を考慮し、ゴミ収集車が広場外からここ(駐輪場裏)にアクセスできるようになっています。

和田委員)

飲食ブースは大変重要だと思うが、どのようなジャンルのテナントにするつもりなのか。

事務局)

指定管理者候補者のサウンディングリストを見せていただくと、軽飲食を基本としたテナント事業者を打診している状況です。まだ何が入るかは具体的に決まっています。

高山委員)

自由通路から賑わい交流施設に入れるのか。

事務局)

アクセスは問題なくできます。

高山委員)

自由通路の壁の活用について、にぎわい交流スペースの壁は指定管理者の方が考えると思うが、自由通路の方も加賀市が主体となって活用してもらいたい。また、全体の照明について照明のデザインも含めて考えていただきたい。

事務局)

自由通路の壁の活用については、利用者の大半が地元住民であることを考えると、観光客を対象とした活用は難しいと考えております。なお、近隣住民のために地域の情報の掲示も考えましたが、このような情報は地区会館で掲示を行っているところであり、今のところ自由通路の壁の活用については考えていない状況です。

広場の照明については、全体を一体的に考えてデザインしております。また加賀温泉駅舎は夜間ライトアップされており、ギャラリーについてもガラス張りなので適切な照度を保つことができると考えております。

高山委員)

例えば地元学生の絵や書道などの展示スペースとしての利用、市民のための活用空間も検討して

いただきたい。

水野委員長)

報告事項 3、全天候型施設ガレリアについて説明をおねがいします。

事務局)

駅前広場中央に整備予定の全天候型施設「ガレリア」前の空間について、以前は緑化や水を使った空間を計画していたが、イベントを行う空間がないという声が多数あったことから、自由なレイアウトでイベントができる空間にしております。

しかし加賀市は、緑化を積極的に進めていくという考え方なので、移動式の大型のプランターを設置することで、積極的に緑化を図りつつ、自由に活用できる広場空間を形成し、ガレリアの内部とも連続して活用できるようにいたします。また、イベント開催やキッチンカーを呼び込む等して積極的な広場のにぎわい創出を図る予定です。

ガレリアは全面ガラス張りとしており、本市が目指している未来都市をイメージした開放感のあるデザインです。屋根形状は勾配屋根としており、一番高いところで約 14m としております。一部分二階を設けており、エントランスから直接二階部分に上がれる構造としており、くつろげる空間も設置する予定です。

また、開口部分においては気象に対応できるよう折り畳み型の扉としており、基本的には常時空いている状態にする予定です。

活用としては、大型ディスプレイを設置する予定で、スポーツイベント時にはパブリックビューイングの開催などにより、賑わいの創出を図るといった使い方を想定しています。

以上で説明を終わります。

河島委員)

ガレリア内には伝統工芸品などの展示は想定していないのか。

事務局)

全面ガラス張りの構造上、光が差し込み、伝統工芸などは傷みやすい課題があるため展示しない方針です。

河島委員)

ガレリアの構造における防災面は大丈夫なのか。

ネットを張るなどの対策はとらないのか。

事務局)

慎重な構造計算の結果、屋根部分の骨組みを細かくし、ガラスが脱落しにくい構造としています。

また、遮熱につきましては、ガラス部分の日射率を 70%カットする low-e ガラスを採用しており、イニシャルコストは高額になるが、ランニングコストを考慮した有効なものを設置します。

さらに、側面ガラスの部分においては、換気や通気ができる対策をとっております。

また、床部分に輻射熱による冷暖房の新技术を取り入れ、ランニングコストを抑えた室温調節を行ってまいります。

和田委員)

ガレリア内での飲食の販売などは行うのか。

また、ガレリア内へのキッチンカーなどの乗り入れは考えているか。

事務局)

飲食物の持ち込みなどは、にぎわい交流施設等で購入されたものなどの持ち込みは可能ですが、販売については、ニーズに沿った空間形成をしていきたいと考えており、現状は考えていない。

また、ガレリア内にキッチンカーを乗り入れすることは可能だが、基本的には考えていない。

古場田委員)

構造物の耐用年数はどのくらいなのか。

観光客や地元住民が交流する質の変化に対応できるのか。

事務局)

耐用年数は50年以上となります。

交流の質の変化については、施設内になるべく固定の構造物を設置しない方針とし、様々なレイアウトができるよう対応します。

師池委員)

子供や女性が多く訪れることが想定される中、UV対策は何かされているのか。

事務局)

UVカット率が7割程度あるガラスを設置します。

師池委員)

ガレリアの一階においても、休憩できるスペースが確保されているのか。

事務局)

休憩できるスペースはあります。

師池委員)

構内における喫煙スペースは確保されているのか。

事務局)

加賀市では、公共建築物における喫煙スペースは基本的に設けない方針です。また、駅前広場における喫煙スペースにつきましては、駅に向かって右側の角に設けています。

師池委員)

増加傾向にある公共施設へのペットの持ち込みなどはどのように考えているか。

事務局)

盲導犬などは当然大丈夫ですが、ペットの持ち込みをどうするかは今後の課題として考えていきます。

師池委員)

ガレリアの天井メンテナンスや、虫対策として何か考えているのか。

事務局)

定期的なメンテナンスは考えております。

鳥や虫対策といたしまして、換気・通気窓などには網戸などを用いて侵入を防ぎます。

また、屋内の柱には鳥対策が施された柱を用いるなどして対策していきたいと考えています。

和田委員)

駅前広場では、普通の広場ではなくモニュメント的なものを設置することはできないのか。

事務局)

ガレリア自体が独創的な建築物なので、モニュメントになりうるものだと考えています。そのためモニュメント的なものは現在考えておりません。

小中出委員)

除雪方法などはどのように想定しているのか。

事務局)

路線バス停留所やタクシー乗降場等からガレリアにかけてコロネードで接続しており、天候の影響を受けずに移動できるようになっているため、基本的に除雪は考えておりません。

田畑委員)

ガレリア内のテーブルや椅子、プランターは常設されるのですか。

事務局)

ガレリア内では極力緑化を図っていきたいと考えているため、プランターは常設する方針です。

また、椅子やテーブルに関しても、気軽に憩いの場として利用していただきたいので、常設する方針でいます。

高山委員)

広場の利用について、イベントなどをする際の届出は、どこでどのようにすればよいのか。

また、ガレリア内の階段上のフリースペースにピアノなどは設置できないのか。

事務局)

現在の条例では、ギャラリーは道路の広場となり、建設部で管理しており、使用許可を出す形になりますが、どのようにして使い勝手を良くしていくかなど今後検討してまいります。

また、ピアノに関しては、地元のロータリークラブからギャラリーに展示するよう寄贈頂いたピアノがございます。

現在はギャラリーが完成するまで、美術館に展示しております。

水野委員長)

都市計画まちづくりを進めている中で求められることは、自由な空間や広場をすることであり、全天候型広場施設は非常に高い利用率で、視察が訪れるような場所になると思います。

ガラスを使った建築物の技術は、日本では30年ぐらい、欧米では、70～80年続いております。ただ欧米とは違うところは地震が多いことではありますが、地震が起こっても50年耐える構造、これは、日本の建築技術の結晶だと考えております。

これまで数十年の間、臨機応変に対応しながら技術も進化させており、日本はそうやって技術を獲得していくというプロセスにあります。ある種の挑戦のプロセスだろうと考えており、建築の技術上、そういう段階にあります。あらゆる都市で挑戦し、いろんな技術を積み重ねて欲しいです。

蜂谷アドバイザー)

今の説明でほとんど総括されたのですが、検討委員会が開設された8年前を思い出しました。東北新幹線、九州新幹線、そして北陸新幹線。その過程で、駅というのは単なる乗り降りするための結節点ではなくて、これからの都市を牽引する、にぎわいの拠点だという風に社会が変わってきました。その傾向は特に北陸新幹線開通以降顕著になっています。

伝統工芸、地場産業をPRするのは、これも金沢くらいしかない。

多分、マスコミで報道されたら金沢市以上の衝撃力で、途中下車してでも、それらを見学したいという方は一定数いると思う。非常にすばらしいものが加賀市に生まれるという点で、希望を持っていただきたい。

これからギャラリー完成までの2年弱の間に、加賀市のオピニオンリーダーである検討委員の皆さんで、ギャラリーの活用方法について各種文化的団体、教育機関等を巻き込んで検討していただきたい。

金沢駅のガラスドームはあれだけのにぎわいを創出しながら利用されているが、イベントはできない。しかし、加賀市ではイベントも開催できます。

だからその違いを是非出していただきたいな。

そのためには、この検討委員会の皆様と、もちろん加賀市が中心になって、これをどう使いこなしていくかについて力を入れていただければと思います。

これで8年間の成果がいよいよ実りますので、あとはこれどう使いこなせるかということになります。皆さんにそれを期待してたいと思います。

以上でございます。

水野委員長)

ありがとうございました。

事務局)

今回の本委員会ですが、委員会設置要綱第2条の検討事項が完了することとなりましたので、本日をもって終了いたします。

それでは、閉会にあたりまして、建設部長の谷口より、ご挨拶致します。

谷口部長)

皆さん、8年間という長い間、様々なご意見を頂きまして本当にありがとうございます。

にぎわい交流施設、ギャラリーというところで、分かりやすいサイン、展示品の開発、安全安心の照明、デザイン、自由通路活用などいろいろとご意見頂きました。

最後には今後のソフト事業について、より良いにぎわい創出に向けてご意見頂きました。

事務局からもありましたが、施設の耐用年数は50年以上あります。

これら施設の活用によりにぎわいを創出し、駅前に人が集まるように工夫を重ね、観光客の人も駅前を見てから、各温泉に行こうと思えるような施設にしていきたいと思っております。

皆様に感謝を申し上げまして閉会の挨拶といたします。

ありがとうございました。

事務局)

それでは、これもちまして、第14回加賀温泉駅施設整備検討委員会を閉会いたします。

皆様お疲れさまでした。ありがとうございました。